

4.1 ベクトルの積分

変数 t のベクトル関数があり, その微分が $\mathbf{a}(t)$ であるとき, もとのベクトル関数を $\mathbf{a}(t)$ の不定積分といい,

$$\int \mathbf{a}(t) dt$$

と表す.

$\frac{d\mathbf{b}}{dt} = \mathbf{a}(t)$ ならば,

$$\int \mathbf{a}(t) dt = \mathbf{b}(t) + \mathbf{c}$$

である. ここで \mathbf{c} は t に依存しない任意のベクトル関数である.

(1) 次の不定積分を求めよ. ただし $|\mathbf{a}(t)| = a(t)$ とする

(i) $\int \mathbf{a} \cdot \frac{d\mathbf{a}}{dt} dt$

(ii) $\left(\int \mathbf{a} \times \frac{d^2\mathbf{a}}{dt^2} \right) dt$

(ii) $\int \left(\frac{1}{a} \frac{d\mathbf{a}}{dt} - \frac{da}{dt} \frac{\mathbf{a}}{a^2} \right) dt$

ベクトル関数 $\mathbf{a}(t)$ の定義域を $[t_0, T]$ とする. 区間 $[t_0, T]$ を N 個の小区間に分割し, 各区間の長さを Δt_i ($i = 1, 2, \dots, N$), 各区間における任意の t の値に対する $\mathbf{a}(t)$ の値を $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_N$ とする. このとき

$$\sum_{i=1}^N \mathbf{a}_i \Delta t_i$$

を $N \rightarrow \infty$ としたときの極限值が存在する場合, これを $t = t_0$ から T へ至る $\mathbf{a}(t)$ の定積分といい,

$$\int_{t_0}^T \mathbf{a}(t) dt \equiv \lim_{N \rightarrow \infty} \sum_{i=1}^N \mathbf{a}_i \Delta t_i$$

と表す.

(2) 時間 t とともに位置と速度を変えながら運動する質点を考える. 質点の位置を $\mathbf{r}(t)$, 速度を $\mathbf{v}(t)$ とするとき, 時刻 t_0 から t_1 に至るまでの質点の変移は

$$\int_{t_0}^{t_1} \mathbf{v} dt = \mathbf{r}(t_1) - \mathbf{r}(t_0)$$

となることを示せ ($d\mathbf{r}(t)/dt = \mathbf{v}(t)$ であることに注意せよ).

4.2 スカラーの勾配

座標 x, y, z の関数 $f = f(x, y, z)$ が与えられた場合, 点 (x, y, z) における f の勾配 (gradient) は以下のように定義される.

$$\text{grad } f \equiv \frac{\partial f}{\partial x} \mathbf{e}_x + \frac{\partial f}{\partial y} \mathbf{e}_y + \frac{\partial f}{\partial z} \mathbf{e}_z. \quad (4.1)$$

ここで \mathbf{e}_i は i 方向の単位ベクトルである. grad はグラジエント, もしくはグラッドと発音する. (4.1) はハミルトンの演算子

$$\nabla \equiv \mathbf{e}_x \frac{\partial}{\partial x} + \mathbf{e}_y \frac{\partial}{\partial y} + \mathbf{e}_z \frac{\partial}{\partial z}$$

を用いると

$$\text{grad } f = \nabla f$$

と表される.

- (1) 固定点 P から一定の微小距離 dr だけ離れた点 Q がある. 点 P から Q へ移動した際の関数 f の変化が最大となるのは, ベクトル PQ が点 P における ∇f に平行な場合であることを示せ (ヒント: ベクトル PQ を $dr = e_x dx + e_y dy + e_z dz$ としてみよ).
- (2) ∇f は $f = \text{一定}$ の面 (これを等位面と呼ぶ) に垂直であることを示せ.
- (3) g を f とは異なるスカラー関数とする場合, 以下の式が成り立つことを示せ. ただし α, β はスカラーとする.

$$(i) \nabla(\alpha f + \beta g) = \alpha \nabla f + \beta \nabla g$$

$$(ii) \nabla(fg) = g \nabla f + f \nabla g$$

$$(iii) \nabla \left(\frac{g}{f} \right) = \frac{f \nabla g - g \nabla f}{f^2}$$

$$(iv) \nabla f(g) = \frac{\partial f}{\partial g} \nabla g$$

4.3 ベクトルの発散

各成分が座標の関数となっているベクトル

$$\mathbf{A} = a_x(x, y, z)\mathbf{e}_x + a_y(x, y, z)\mathbf{e}_y + a_z(x, y, z)\mathbf{e}_z$$

を考える (このとき \mathbf{A} をベクトル場と呼ぶ). \mathbf{A} の発散 (divergence, ダイバージェンス) は以下のように定義される.

$$\operatorname{div} \mathbf{A} \equiv \frac{\partial a_x}{\partial x} + \frac{\partial a_y}{\partial y} + \frac{\partial a_z}{\partial z}. \quad (4.2)$$

(1) $\varphi = \varphi(x, y, z)$ をスカラー関数とすると,

$$\operatorname{div} \cdot (\varphi \mathbf{A}) = (\operatorname{grad} \varphi) \cdot \mathbf{A} + \varphi \operatorname{div} \cdot \mathbf{A}$$

となることを示せ.

(2) スカラー関数 φ に対し,

$$\operatorname{div} (\operatorname{grad} \varphi) = \frac{\partial^2 \varphi}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 \varphi}{\partial y^2} + \frac{\partial^2 \varphi}{\partial z^2}$$

となることを示せ.

$\operatorname{div} (\operatorname{grad} \varphi)$ は $\nabla \cdot (\nabla \varphi)$, $\nabla^2 \varphi$ 等とも表す. とくに ∇^2 を記号 Δ で表し, これをラプラス演算子と呼ぶ.

4.4 ベクトルの回転

ベクトル場 A に対し, その回転 (rotation, ローテーション, ロート) は以下のように定義される.

$$\operatorname{rot} A \equiv \left(\frac{\partial a_z}{\partial y} - \frac{\partial a_y}{\partial z} \right) \mathbf{e}_x + \left(\frac{\partial a_x}{\partial z} - \frac{\partial a_z}{\partial x} \right) \mathbf{e}_y + \left(\frac{\partial a_y}{\partial x} - \frac{\partial a_x}{\partial y} \right) \mathbf{e}_z. \quad (4.3)$$

行列式の形で書けば,

$$\operatorname{rot} A = \begin{vmatrix} \mathbf{e}_x & \mathbf{e}_y & \mathbf{e}_z \\ \frac{\partial}{\partial x} & \frac{\partial}{\partial y} & \frac{\partial}{\partial z} \\ a_x & a_y & a_z \end{vmatrix}$$

と表される.

- (1) $\operatorname{rot} A$ の第 i 成分をエディントンのイプシロン ε_{ijk} を用いて表せ.
- (2) スカラー関数 φ に対し $\operatorname{rot} (\operatorname{grad} \varphi) = 0$ となることを示せ.
- (3) $\operatorname{div} (\operatorname{rot} A) = 0$ となることを示せ.
- (4) $\operatorname{rot} (\varphi A) = (\operatorname{grad} \varphi) \times A + \varphi \operatorname{rot} A$ となることを示せ.